



2021年 野球殿堂入り通知式

館長 庄司 正信

1月14日（木）、野球殿堂博物館を臨時休館にさせていただき、午後3時より2021年「野球殿堂入り」通知式を行いました。

今回は新型コロナウイルス感染拡大による緊急事態宣言中でしたので、オンラインでの開催とし、顕彰者は地方からご参加、他の参加者もメディアの方、維持会員に限らせていただきました。競技者表彰・プレーヤー表彰は、2年連続で該当者なしとなりました。また、エキスパート表彰も2015年以来の該当者なしで、競技者表彰として該当者なしは、1998年以来23年ぶりのこととなりました。一方、特別表彰からは、ヤマハで3度都市対抗野球優勝、アトランタ五輪では日本代表監督をされた川島 勝司さんと、日米野球史に関する著書を多数著作されているノンフィクション作家で、日本高等学校野球連盟顧問の佐山 和夫さんの2名が選出されました。



川島 勝司氏（朝日新聞社代表撮影）

斉藤 惇理事長から挨拶と2021年野球殿堂入りの発表、永瀬 郷太郎競技者表彰委員会代表幹事より競技者表彰委員会の、また池田 哲雄特別表彰委員会議長より特別表彰委員会の選考過程について各々報告がありました。続いて、斉藤理事長より殿堂入り通知書の読み上げ（通知書は後日郵送いたしました）がなされた後、顕彰者の挨拶となりました。まずは川島さんから、指導者・チームメイト・選手・スタッフ・ご家族への感謝の気持ちとアトランタ五輪の思い出が語られました。最後に「今後

も微力ではありますが、野球の発展のために尽くしていきたい」と決意を述べられました。

次に佐山さんより、「これまでの人生で、こんなに驚いたことはありません」とご感想があり、ご自身と野球との出会い、その後のかわりを野球になぞられて、ユーモラスに語られました。引き続き、ゲストスピーチに移り、ソウル五輪では監督とコーチの間柄だった鈴木 義信さんより、川島さんと初めて出会った1960年、高校2年生の時の思い出に始まり、その後の交流が語られ、「あなたの存在感を心強く思った。」とソウル五輪の際に感じた川島さんへの感謝が述べられました。佐山さんには、日本高等学校野球連盟理事の田名部 和裕さんから、佐山さんと高校野球の関わりが述べられ、「積極性を養うのが教育の根幹だ」という提案が選手宣誓の立候補制につながったと、制度導入の経緯を披露していただきました。

川島さん、佐山さん、この度は野球殿堂入りおめでとうございました。また、当館として初めてのオンラインによる通知式開催にあたり、関係者の皆様には多大なご協力をいただきました。改めて御礼申し上げます。



佐山 和夫氏（スポーツニッポン新聞社代表撮影）

2021年野球殿堂入り

競技者表彰委員会

第61回競技者表彰委員会は、残念ながらプレーヤー表彰、エキスパート表彰とも候補者を殿堂に送り出すことができなかった。

プレーヤー表彰は現役を引退して5年を経過し、かつ引退から21年未満の有資格者の中から幹事会が選んだ30人の候補者を対象に、15年以上の野球報道経験を持つ363人の委員のうち358人から最大7人連記の投票があった。

無効票はなく有効投票数は358。最大7人連記の投票で投票総数は2041。委員1人平均5.7人の投票は、前回の平均5.4人を0.3人上回った。しかしながら、有効投票数の75%にあたる当選必要数269票に届いた候補者はいなかった。

最多得票は高津 臣吾氏の259票で、得票率は72.3%。当選必要数に10票及ばなかった。続いて新候補者の山本昌氏が68.2%の244票を獲得。65.1%の233票を獲得したアレックス・ラミレス氏、58.1%の208票を集めた川相昌弘氏、50.3%の180票を得た宮本 慎也氏が続いた。

以上5人が得票率50%を超えたが、今回は前回から引き続き候補になった19人で前回から票を伸ばした候補者は1人もいなかった。高津氏、ラミレス氏の2人は前回と同数。その他17人は揃って得票を減らすという極めて珍しい結果となった。

その票は新候補者に流れた。2015年シーズンを最後に引退して今回資格を得た新候補者は山本昌氏の他に得票率38.5%にあたる138票を獲得した谷繁 元信氏、17.0%の61票を集めた松中 信彦氏、さらに小笠原 道大、高橋 由伸、和田 一浩、谷 佳知、井端 弘和、西口 文也、斎藤隆、川上 憲伸の各氏で全11氏。これだけの人材が同時に候補者となり、票が分散する形になったのである。

幹事会では「候補者が多くなると票が割れる」と危惧する声も挙がった。その一方で従前の候補者との比較で「A氏が入っていてB氏が入らないのはおかしい」とする意見もあり、それぞれの実績、貢献に敬意を表する意味で、前回の21人から9人増、候補者枠いっぱいの30人を選出したのだ。

競技者表彰がプレーヤー表彰とエキスパート表彰の2

部門に分かれた2008年以降、プレーヤー表彰で当選者が出なかったのは2年連続2度目。また7人が得票率3%に満たず、規程により次回から候補者を外れることになった。

エキスパート表彰は幹事会が選んだ20人の候補者を対象に、すでに野球殿堂入りしている方と競技者表彰委員会の幹事、野球報道に関して30年以上の経験を持つ委員、合計138人のうち134人から最大5人連記の投票があった。

こちらも無効投票はなく、有効投票数は134。投票総数562で前回同様1人平均4.2人の投票となったが、当選必要数の101票に届いた候補はいなかった。

最多得票は得票率70.9%にあたる95票を獲得したランディ・バース氏。前回の89票（65.9%）から票を伸ばしたが、わずか6票及ばなかった。54.5%にあたる73票を集めた掛布 雅之氏、36.6%の49票を得た大沢 啓二氏が続いた。

エキスパート表彰で当選者が出なかったのは6年ぶり5度目。プレーヤー、エキスパート両部門いずれも当選者がいなかったのは初めてで、競技者表彰で一人も殿堂入りしないのは1998年以来23年ぶりという残念な結果となった。

競技者表彰委員会代表幹事 永瀬 郷太郎



博物館での通知式（オンライン開催）のようす

2021年野球殿堂入り

特別表彰委員会

2021年野球殿堂入りを決める第60回特別表彰委員会が、去る1月7日に東京ドームホテルで開催された。昨年は前田 祐吉氏（元慶応大学野球部監督）と、石井 連藏氏（元早稲田大学野球部監督）の2名が晴れて野球殿堂入りを決めた。また、水島 新司氏が辞退したため、今年は新たに3名の候補者を加えた計10名の候補者の中から、選考委員14名の投票が行われた。その結果、野球殿堂入りに必要な75%以上（11票）の票を獲得したのは、川島勝司氏と佐山 和夫氏の2名だった。

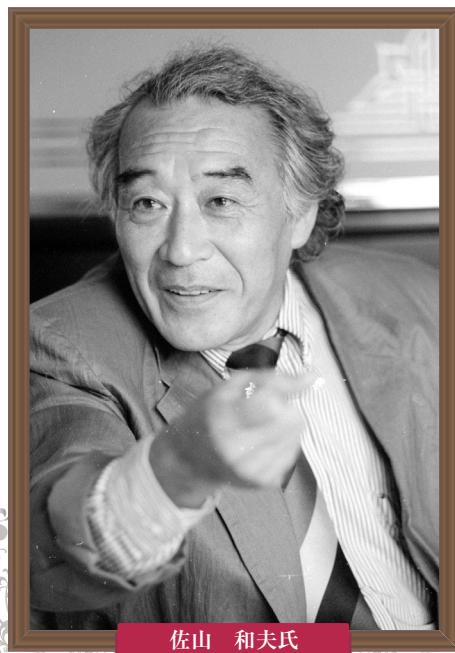
川島 勝司氏は1943年4月17日生まれ。栃木県佐野市出身。桐生高から、62年に中央大学へ進学。64年秋のリーグ戦優勝に貢献し、三塁手としてベストナインに輝く。翌65年春にも、ベストナインを受賞。66年、日本楽器（現在のヤマハ）へ入社。67年、68年（河合楽器の補強選手）と、三塁手として都市対抗野球大会へ出場した。2年連続で優秀選手賞に選出され、68年には社会人野球ベストナインに輝いている。現役引退後の72年、日本楽器の監督に就任。都市対抗野球大会で初優勝へ導く。チーム名が日本楽器からヤマハに代わった87年に監督復帰すると、都市対抗野球大会で二度目の優勝を飾り、小野賞を受賞。90年には、都市対抗野球大会で、3度目の優勝を飾る。監督として3度の都市対抗野球大会優勝は、最多である。88年にはコーチとしてソウル五輪で、日本代表の銀メダル獲得に貢献。96年には、日本代表監督として、アトランタ五輪で銀メダルを獲得している。



川島 勝司氏

財団法人・日本野球連盟（現在の公益財団法人・日本野球連盟）にて、競技力向上委員長、常任理事、副会長を歴任。さらに全日本アマチュア野球連盟にて常任理事を務めるなど、野球の競技力向上と指導者の育成に尽力した功績は絶大だった。

佐山 和夫氏は、1936年8月18日生まれ。和歌山県田辺市出身。田辺高から慶応義塾大学へ進学。母校の英語教師を務めた後、ノンフィクション作家へ転身。米大リーグに造詣が深い。84年、1920年から40年代に米国ニグロリーグで活躍した伝説の投手サチュル・ペイジを取り扱った『史上最高の投手はだれか』を上梓。93年には、史実に基づきベースボールが米国で発祥したルーツを探る『野球とクジラ』を著すなど、日米の野球史に関する著書を多数著した。また、98年には『伝説のレフティ・オドール』の翻訳も行うなど、野球史の発信に大きく貢献した。



佐山 和夫氏

99年から日本高等学校野球連盟の顧問に就任。2000年、第73回選抜高等学校野球大会の選考方法の抜本的改革案検討で、佐山氏の提案がキッカケとなり、「21世紀枠」の創設に繋がった。07年、第79回選抜高等学校野球大会の21世紀枠特別選考委員に就任。現在に至る。

特別表彰委員会議長 池田 哲雄

（2氏の写真はベースボール・マガジン社提供）

殿堂入りの人々を語る(69)

発明家・前田 祐吉

前田 大介 (2020年野球殿堂入り 前田 祐吉氏次男)



前田 祐吉氏

父・前田 祐吉は、野球殿堂入りをさせていただいたものの、野球人といった呼ばれ方をするのは、おそらく好きではなく、野球界にはびこる先入観、偏ったレガシーに常に疑問を投げけていました。もちろん、生業ともしていましたから、野球を始めとしたスポーツが大好きで、スポーツが与える三つの宝といった慶應義塾に伝わる言葉を介して、スポーツの素晴らしさを、適切な距離感で正しく積極的に向き合え、といったことを学生に説いていました。

そんな前田 祐吉の趣味は、「発明」です。晩年世に出した2冊の本のうち1冊は、なんと発明の本、そして闘病中に書き込んでいたメモ、いまわの際まで私をわずらわす調査依頼をしてきたもの全て発明に関することです。発明の本の内容は、人を助ける「如意棒」の作り方、ハイジャックを防ぐ「コックピットの構造改変」、「海流を利用した発電」など、驚くほど多岐に渡っており、野球との関連性は一切ありません。発明は、先入観にとらわれては出来ません。著書のタイトルの一部にもなっていますが「素人だから飛べる（壁を壁と思わない ゼロベースで思考する）」といった立ち位置が重要なようです。

さて野球に立ち返って思うと、前田 祐吉は、発明と同様、ゼロベースで考えることを説いていたように思います。20数年前の彼のコラムから抜粋。

〈基本中の基本として教えられてきたことを、全部一から見直してみてもどうか。例えば投手の基本と見られている。「回転の良い直球」に対し、アメリカの投手は「変化を伴う速球」こそが投手の球だと考えている。日本で「バットを最短距離に出す」ことが打撃の理想と見られているのに対し、彼らは「力のある打者は、バットの軌道を長くして長打を生む」と説明する。守備でも、我々は腰を落としてゴロを捕れと教えるのに、アメリカでは胸を降ろせと表現する。この方が楽にグラブが地面につき、両腕が柔らかく使えるからである。

このように、我々が基本技であると信じていることでも、見方を変えれば、必ずしも絶対ではないことも多い。先入観を捨てて、野球を見直し、自分の特徴を最大限に生かす方法を探ることが、効率のよい練習の第一歩である。名選手と言われる人は、必ず他人に真似のできない独自の技術を持っているもので、それを追求することほど楽しいことはない。大いに個性を発揮して活躍されることを期待する次第である。〉

そして彼の著書から学生野球の指導者に対しての一文。

〈世間では野球選手は練習や試合のため、授業に出られなくて当然、卒業できなくても仕方がない考える人が多いが、私はこれには強く反発する。柄にもなく堅い話になって恐縮であるが、野球部員にとって授業に出るのは義務ではなく、最も基本的な権利である。そして、その権利を行使して自らを高めるか、放棄して惰性に流されるかは、自分自身の問題であり学業を放棄したツケは、一生自分で背負ってゆくしかない。大学で野球部に在籍したことは、何の言い訳にもならず、卒業後に直面する社会は、それを評価してくれるほど甘くはない。

いかに優れた指導者でも、その人の教えを守って野球に精進さえすれば立派な人間になれると考えるのは危険な思い違いである。学生野球の指導者にとっては、部員が努力すれば学業と野球が両立できる環境を与えることが、逃れることの出来ない義務であり、自らを律するモラルだと私は考えている。〉

発明家は、たまに面倒なことを言い出しますが、常人が見過ごしてしまう物事の核心をつき、しばしば周囲はハッと息を飲みます。

私が大学野球部に入寮した時の話。

私：「部屋長のKさん、まだ4月なのにもう経済原論とか勉強しているよ、異常だよ！」

父：「勉強を一切しないお前の方が異常だ！」

今となっては、墓前で謝ることしか出来ませんが、本当に偉大な父でした。

ホームページリニューアルについて

館長 庄司 正信

当館では、導入後約15年経ったホームページを昨年12月17日にリニューアルいたしました。維持会員を始め各位よりご好評をいただき、職員一同喜んでおります。今後も引き続き、改善を重ね、皆様に楽しんでいただけるようなホームページを目指してまいります。

さて、今回のリニューアルですが、まずデザインでは、コアな野球ファンから子供たち、そのご家族など幅広いファン層に親しんでいただけるようにイラストを多用し、トップページは、画面に動きをつけて新しさと興味喚起をアピールしました。閲覧しやすい画面作成としては、スマートフォンへの対応や、どんな画面でも読みやすいように一回り大きな文字・画面サイズにしました。

ナビゲーションも一新し、知りたい情報へのアクセスが容易になりました。また、グッズ販売強化のため新たにEコマース（オンラインショップ）を導入しました。導入後すぐにご購入があり、導入効果がはっきりと現れております。

加えて、野球殿堂入りの方々を紹介を充実させる、英語だけでなく繁体字や韓国語への対応をする、セキュリティの強化を図るなどお客様へのサービスも改善いたしました。これらにより、多くの方々に楽しんで閲覧していただけるのではないかと考えています。

今回も、上記の団体の皆様にご協力をいただきました。心よりお礼申し上げます。

オンラインショップのご案内

リニューアルに伴い、オンラインショップも新しく開設いたしました。

オンラインショップでは、クレジットカード決済が出来るようになり、パソコンやスマートフォンで24時間手軽にご注文いただけます。当館オリジナルグッズはもちろん、NPBスコアブックや公認球、プロ野球12球団のロゴマークやペットマークの付いた“かっとばし”も販売いたしております。

オンラインショップでは、様々なキャンペーンを企画いたしますので、ぜひご覧下さい。



▼ご協力いただいた団体（順不同・敬称略）

一般社団法人 日本野球機構
公益財団法人 日本野球連盟
公益財団法人 日本学生野球協会
公益財団法人 全日本大学野球連盟
公益財団法人 日本高等学校野球連盟
公益財団法人 全日本軟式野球連盟
株式会社 東京ドーム



野球殿堂博物館
オンラインショップ
QRコード▼



野球殿堂博物館 トピックス (2020年9月～2021年1月)

11/5 田中 将大投手 着用ユニホーム展示

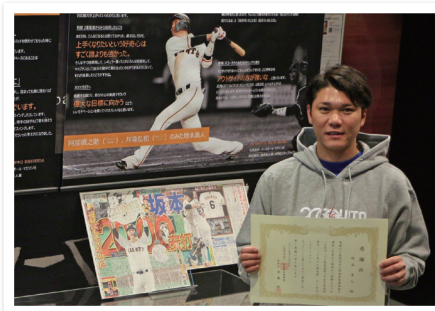
ニューヨーク・ヤンキースにご協力いただき、田中投手が9月17日(木)のブルージェイズ戦で着用したサイン入りユニホームと帽子をご寄贈いただきました。この試合、田中投手は7回3失点と好投し、勝利投手となりました。

また、味方打線が爆発し、1イニング5本塁打のメジャータイ記録、3連戦19本塁打、3試合連続6本塁打以上のメジャー新記録を樹立するなど、チームにとっても、歴史的な勝利となりました。3月7日(日)まで、企画展「野球報道写真展2020」で展示します。



11/8 坂本 勇人選手 通算2000安打達成記念展示

坂本選手、読売ジャイアンツのご協力により、坂本選手の通算2000安打達成バット、ボールを11月8日(日)の達成当日から、館内で公開しました。当館での展示は11月末でいったん終了しましたが、2021年1月2日(土)より再開しています。また、11月17日(火)には、坂本 勇人選手にご来館いただき、展示協力への感謝状を贈呈しました。



11/15 野球殿堂入り記念トークイベント 『田淵 幸一 ホームラン・アーチストの軌跡』

日時：11月15日(日) 17:30～18:30

聞き手：松下 賢次 氏(元TBSアナウンサー)

田淵 幸一氏の2020年野球殿堂入りを記念し、“ホームラン・アーチスト”と呼ばれた同氏の軌跡を振り返るトークイベントを開催しました。現地観覧とオンラインライブ配信の参加者を募集したところ、現地観覧は満員となり、オンラインライブ配信も多くの方にお申し込みいただきました。

トークイベントでは、阪神への入団の経緯、王 貞治選手の14年連続本塁打王を阻止してホームランキングに輝いた秘話や、西武時代に日本一に輝いた話など、田淵氏ご自身の軌跡について語っていただきました。質問コーナーでは、一つ一つ丁寧にお答えいただき、多くの皆様からご好評をいただきました。



11/21 第91回都市対抗野球大会 特別展示「歴代橋戸賞(MVP)の系譜」

会期：2020年11月21日(土)～2021年1月31日(日)

都市対抗野球大会の開催にあわせ、大会MVPである橋戸賞と、歴代受賞者や関連資料を紹介する特別展示を開催し、平松 政次投手(第38回大会受賞)橋戸賞トロフィー、田澤 純一投手(第79回大会受賞)着用ユニホーム、須田 幸太投手(第90回大会受賞)着用ユニホームなどを展示しました。



「第5回 野球で自由研究!コンテスト」開催!

野球殿堂博物館では、「第5回 野球で自由研究!コンテスト」を開催しました。作品募集期間は2020年8月1日(土)から2020年12月25日(金)までで、35作品の応募がありました。

2021年1月28日(木)に、山中 正竹氏(2016年野球殿堂入り、全日本野球協会会長)、田原 淳子氏(国土館大学教授)、庄司 正信館長の3名の審査で行われました。授賞作品は、2月下旬に発表予定です。入賞作品は、「第5回 野球で自由研究! コンテスト作品展」として、その他の一次選考通過作品とともに展示予定です。

作品展の日程は、後日当館ホームページにてお知らせいたします。



審査の様子

展 示

企画展「野球報道写真展2020」

会期：～2021年3月7日(日)

会場：野球殿堂博物館 企画展示室

東京写真記者協会加盟各社のカメラマンが撮影した、2020年シーズンの野球界のハイライトを収めたベストショットで、野球の素晴らしさを伝える写真72作品を展示し、昨シーズンの野球界の出来事を振り返ります。会場では「ベストショット オブ ザ イヤー2020」を決めるファン投票を実施しています。



2020年12月20日に早稲田大学野球部・小宮山 悟監督、早川隆久投手が来館され、秋季リーグ戦で優勝を決めた瞬間の写真パネルなどに記念のサインを書き入れていただきました。



特集展示「近鉄バファローズ 猛牛戦士たちの記憶」

会期：～2021年4月30日(金) (会期を延長しました)

会場：野球殿堂博物館 イベントホール

闘将”西本幸雄に率いられての初のリーグ制覇と日本一まで紙一重に迫った79年日本シリーズ、88年の「10.19」の悲劇とその翌年のリーグ制覇、2年連続最下位から果たした01年の劇的なリーグ制覇など、合併から17年がたった現在でも伝説として語り継がれる、近鉄バファローズと猛牛戦士の活躍を振り返ります。

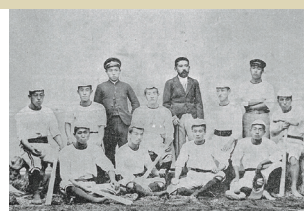


次回企画展「文京野球物語」

会期：2021年3月19日(金)～6月9日(水) 予定

会場：野球殿堂博物館 企画展示室

文京区と野球のつながりについて、東京高師附中(1946年夏)、日大豊山高(2000年夏)が全国大会で活躍した「高校野球」、歴史と伝統を誇る「一高・東大野球部の軌跡」、数多くの名勝負が繰り広げられた「後楽園・東京ドームの歴史」などのトピックからご紹介します。



▲一高野球部(1896年)

博物館からのお知らせ

▶理事会

2020年10月27日、東京ドームホテルにて、第3回理事会を開催致しました。

議題 1. 副業に関する規程の新規制定について
2. 評議員選定委員会細則の制定について
3. 会議日程等について

報告 1. 理事長及び業務執行理事の職務の執行状況について
2. 特別表彰委員会委員の交代について
3. 参与就任について
4. その他

▶職員の異動

《新任》参与 石井 一夫 (いしい かずお)



1957年4月13日生まれ

82年3月 早稲田大学政治経済学部卒業。

83年4月 読売新聞社入社。ロサンゼルス支局長、東京本社の社会部長などを歴任する。

17年6月 読売巨人軍代表取締役社長に就任。
19年6月には代表取締役会長となる。

20年9月1日付で公益財団法人野球殿堂博物館参与となる。

場 所 東京ドーム21ゲート右

開館時間 当面の間

平日 13:00～17:00 (最終入館16:30)

土・日・祝 10:00～17:00 (最終入館16:30)

※東京ドームで、巨人戦が開催される日については、18:00 閉館(最終入館 17:30) といたします。

入 館 料 大 人 600円 (500円) } () は
高・大学生 400円 } 20名以上の団体
小・中学生 200円 (150円)
65 歳 以上 400円

休 館 日 月曜日(祝日、東京ドームでの野球開催日、春・夏休み中は開館)、年末・年始(12月29日～1月1日)

※新型コロナウイルス感染状況により、開館時間の変更や臨時休館になる可能性がありますので、開館日・開館時間につきましては当館のホームページでご確認ください。

▶物販

●ボールペン(ノック式) 新発売

販売価格：1,100円(税込)

2021年1月より、ノック式のボールペンを新たに販売開始いたしました。シンプルでお仕事にもプライベートにも使えるノック式ボールペンです。軽い書き心地ながら、濃い筆記線が特長です。

【サイズ】最大径12.5mm×全長141mm

【色】黒 / 軸色：黒

【替芯】ゼブラ EQ-0.7芯(黒)



●ボールペン(キャップ式)

販売価格：1,000円(税込)

従来より販売しているキャップ式のボールペンです。高級感のあるデザインで、なめらかな書き味が特徴です。在庫に限りがありますので、お早めにお求めください。

【サイズ】最大径12mm×全長137.5mm

【色】黒 / 軸色：黒

【替芯】ゼブラ F-0.7芯(黒)



※上記の商品も、オンラインショップで取り扱っております。お買い求めはこちらから ▶▶▶▶▶▶▶▶



●編集後記 今年度のニュースレターは、新型コロナウイルスの関係で発行回数が3回となりました。来年度は2回の発行を予定しています。次回は8月に発行する予定です。

野球殿堂博物館 Newsletter 第30巻 第3号

2021年2月18日発行

編集・発行 公益財団法人 野球殿堂博物館

〒112-0004 東京都文京区後楽1-3-61

Tel 03 (3811) 3600 Fax 03 (3811) 5369

<http://www.baseball-museum.or.jp/>



The Baseball Hall of Fame and Museum

公益財団法人 野球殿堂博物館

リレー随筆 (78)

コロナに負けるな

競技者表彰委員会幹事 杉元 雅彦 (読売新聞社)

テレビの中で菅首相が東京、埼玉、千葉、神奈川の1都3県を対象にした緊急事態宣言発令の記者会見を開いています。1月7日、首相は「1か月後に必ず事態を改善させる」と強調しました。その2日後には大阪や京都、兵庫の3府県の知事も宣言の発令を政府に要請しました。年が改まっても新型コロナウイルス感染拡大の勢いが止まりません。1か月先の状況が全く見通せないなか、この原稿を書いています。

2020年は、未知のウイルスに対して全てが手探りでした。プロ野球は開幕が6月にずれ込み、シーズンは例年より23試合少ない120試合。選手たちは感染の脅威と闘いながらグラウンドに立ち、それでも感染者が出ました。高校野球は春夏の甲子園大会が開催できなくなり、泣き崩れる選手や言葉を尽くして励ます指導者の姿が報道されました。夏の甲子園の中止が発表されたとき、後輩記者が3年生の球児取材して記事にした「覚悟していたつもりだったけれど『ああ、本当に終わったんだな』と力が抜けてしまった。どうして僕らの年だけがこんな目に……」という言葉が忘れられません。

プロ野球取材では、記者が監督や選手たちの話を聞くときも、オンラインや代表取材が当たり前になりました。オンラインではパソコンの画面を挟んだ向こうとこちら側で選手と記者が言葉を交わします。代表取材では、現場が「密」になるのを避けるため、各社の担当記者の中から選手らを直接取材する代表者を選び、得られた情報を担当記者の間で共有しています。

報道の現場では、デスクが自分の経験を踏まえて若い記者に指示や助言をします。しかし、未知のウイルスに阻まれ、思うように取材できないもどかしさを訴える記者の言葉には耳を傾けることしかできませんでした。

高校野球でもプロ野球でも、報道する側には試合の勝敗だけでなく、監督や選手の喜怒哀楽や人間味のようなものを伝えたいという思いがあります。

2001年9月26日の大阪ドーム (現京セラドーム大阪)。近鉄・北川 博敏選手が代打逆転サヨナラ満塁アーチを打ち、チームのパ・リーグ優勝を決めました。この試合に5-6で敗れたオリックス・仰木 彬監督は「変な話だが優勝を目の当たりにできてよかった。(近鉄の) 豪快でドラマチックな野球は、楽しさ、おもしろさを満載して内容の濃い優勝だった」と、自身が監督だった1989年以来、12年ぶりのリーグ制覇をたたえました。

近鉄にとってはこれが球団最後のリーグ優勝になりました。この時すでに仰木監督はシーズン後の勇退が報じられ、この試合の数日後に記者会見を開きました。プロ野球史に残るような逆転負けで胴上げを許した監督の胸の内には、悔しさと古巣への祝福の思いが両方あったように思います。オンラインや代表取材では、このときの微妙な雰囲気を感じるのには難しいでしょう。

昨年、大学柔道部の監督から「記者の皆さんには現場で直接取材することを大切にしてもらいたい。肌で感じられることがあるはずですから。オンラインが便利なのは遠方の人と会議をするときだけです」と声をかけられました。いつか必ずコロナは終息する、それまでの我慢という励ましの言葉だと感じました。

報道の現場ではまだしばらく、オンラインや代表取材が続くでしょう。それでも今年は昨年の厳しい経験を生かして、野球の面白さをファンにどうやって伝えるか知恵を絞り、新しいスタイルに挑戦するシーズンにしたい。このニュースレターを皆さんが手にする2月中旬にはコロナが沈静化に向かっていることを願いながら、そんなことを考えています。